

# 現職教育資料

はじめに	1
1 新学習指導要領に見る「個に応じた指導方法・指導体制」	1
2 ティーム・ティーチングと少人数指導	2
3 指導方法・指導体制の工夫で期待される効果	2
4 習熟度別学習の学習集団づくりと留意点	2
5 習熟度別学習の例	3
おわりに	4

## 【個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 (小・中学校編)】

### はじめに

新学習指導要領では、児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童生徒一人一人に応じた教育の充実を図るための指導方法や指導体制の工夫改善を求めている。その実現のため、国は第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画を実施し、学習集団を学級に固定しない、いわゆる少人数指導が進められることになった。

これらを受け、県教育委員会では「とちぎ教育振興ビジョン」に「学ぶ力をはぐくむ教育の充実」を施策として掲げ、その一環として現在「個に応じた指導の研究開発」を行っているところである。本稿では、今後各学校が取り組むべき個に応じた指導方法・指導体制の在り方について、これまでの取組にかんがみながらも新たな方向性を探り、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導を実現するための参考に供したい。

### 1 新学習指導要領に見る「個に応じた指導方法・指導体制」

平成10年12月に告示された新学習指導要領では、総則のうち「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」において、次のように示されている。

#### 小学校 (P5)

各教科等の指導に当たっては、児童が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、教師の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。

#### 中学校 (P5)

各教科等の指導に当たっては、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、教師の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。

小学校と中学校とを比較すると、小学校において「繰り返し指導」としている部分が、中学校では

「学習内容の習熟の程度に応じた指導」となっていることに気付く。中学校において「学習内容の習熟の程度に応じた指導（いわゆる「習熟度別学習」）」が強調されていることについて、「中学校学習指導要領解説 - 総則編 - (平成11年9月：文部省)」では次のように説明されている。

#### 中学校学習指導要領解説 (総則編P93)

このうち、学習内容の習熟の程度に応じた指導については、中学校段階では教科により生徒の習熟の程度に差が生じやすいことを考慮し、それぞれの生徒の習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法を工夫して着実な理解を図っていくことが大切であることから、例示されているものである。とりわけ、今回の改訂において、各教科の教育内容を基礎的・基本的な内容に厳選するとともに、中学校は義務教育の最終段階として、生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることが必要であることから、各学校においては、学習内容の習熟の程度に応じた指導など指導方法の工夫改善が必要である。

一方、「小学校学習指導要領解説 - 総則編 - (平成11年5月：文部省)」においても次のように示されており、中学校における習熟度別学習と同様の工夫について、各小学校が児童の実態や指導の場面に応じて積極的に行うよう求めている。

#### 小学校学習指導要領解説 (総則編P82)

指導方法については、個別指導やグループ指導といった学習形態の導入、理解の状況に応じた繰り返し指導のほか、児童の興味・関心に応じた課題に取り組む学習や理解の状況に応じた課題に取り組む学習、教材・教具の工夫や開発、…(中略)…など児童の実態や指導の場面に応じ、多方面にわたる対応が必要であるう。

### 2 ティーム・ティーチングと少人数指導

これまで、国の第6次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画に基づく、ティーム・ティーチング等を目的とした教員加配が行われてきた。このティ-

ム・ティーチングについては、加配校であるなしにかかわらず、各学校が積極的に工夫・改善を図ることで、様々な成果が上げられてきている。

本年度から開始された第7次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画では、さらに、学習を学級集団だけに固定することなく、習熟の程度の差や興味・関心の違いなどに応じて、より少ない人数で学習集団を編成する少人数指導が推進されることになった。教科等の特性に応じ、少人数指導を取り入れることで、児童生徒一人一人に応じたよりきめ細かな指導が可能になったのである。

これまでのチーム・ティーチングにおいても、学級を複数の学習集団に分け、複数の教員がそれぞれの集団を担当するという取組は行われてきており、チーム・ティーチングと少人数指導との明確な違いを示すことは難しい。ここでは、学級集団単位による一斉学習において複数の教員が協力して指導する場合をチーム・ティーチングと呼ぶこととし、学習集団を学級に固定せずより少人数で学習する形態による指導を少人数指導と呼ぶことにする。

チーム・ティーチングと少人数指導は、別々の指導体制として捉えるのではなく、双方を併用することも効果的であると考えられる。下の図のように、単元全体では、前半をチーム・ティーチングで行い、後半を少人数指導で行うといった方法もあるし、習熟を図る際にチーム・ティーチングの形態に戻して2名の教員が協力して児童生徒の実態に十分応じながら全員を支援するといった方法もある。また同様にして、1単位時間の中でも、双方の組合せにより様々な効果的方法が考えられる。

3 指導方法 指導体制の工夫で期待される効果  
個に応じた指導方法・指導体制を工夫し、児童生徒の興味・関心や習熟の程度にきめ細かく応じることにより、学習指導上の様々な効果が期待される。

**学習指導上期待される効果**

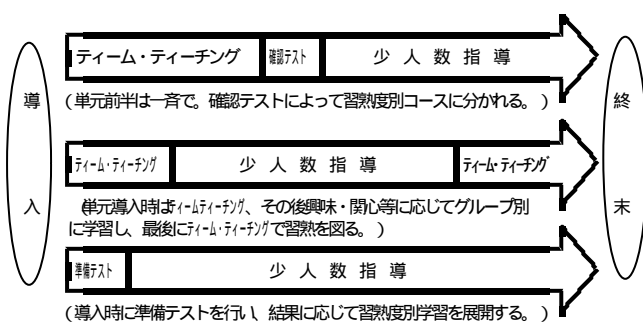
- ・教師が時間をかけて児童生徒を支援でき、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができるようになるとともに、児童生徒一人一人について、より確かな評価が可能になる。
- ・少人数になることで互いに意見を交換しやすい雰囲気をつくることできるようになり、より深く考察しながら、思考力や判断力を高めることができるようになる。
- ・理解の早い児童生徒に、より発展的な課題に挑戦させる機会を増やすことができる。
- ・以上のような効果が相まって、学習意欲がより向上する。

また、学習指導上からだけでなく、副次的に次のような効果も期待される。

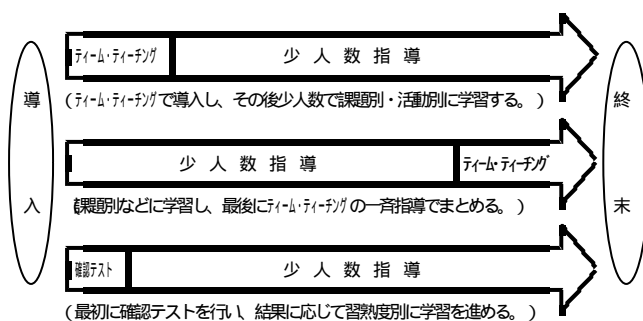
**副次的効果**

- ・複数の教員がかかわりながら学習を展開することで、教材研究がより深まるとともに、教職員の協力体制が強化される。
- ・多面的できめ細かな指導や評価を行うことにより、児童生徒理解がより深まり、いわゆる積極的な児童生徒指導が一層推進できる。

**【個に応じた指導体制の様々な工夫(単元レベル)の例】**



**【個に応じた指導体制の様々な工夫(授業レベル)の例】**



4 習熟度別学習の学習集団づくりと留意点  
これまで、児童生徒の興味・関心に応じるために少人数で学習を行ったり、調査等の活動を行う際に、調査の内容によって少人数の集団を構成したりする工夫が数多く研究・実践されてきているところである。特に中学校においては、選択教科で多くの実践がなされている。そこで今後は、習熟度別の学習を中心に研究を進めていく必要がある。

習熟度別学習の主なねらいには、基礎・基本の確実な定着を図ることと、個性を生かす教育を充実することの二つの側面がある。教師は、どうしても学習が遅れがちな児童生徒を援助することが中心になってしまい、更に伸びる可能性を持った児童生徒に適切な支援をしないまま過ごしてしまいがちである。こうした傾向を習熟度別学習によって改善していくことは、児童生徒一人一人の学習の成立を図っていく上で、大変重要なことである。

習熟度別学習を行う上では、次のような点に留意する必要がある。

**発達段階に応じて、適切な導入を検討する**

習熟度に応じて学習集団を編成することについて、小学校低学年の児童と中学生とでは、受けとめ方が大きく異なる。どの学年で、どの教科でどのような形態で取り入れるかについては、児童生徒の実態や学校の実情などから十分に検討する必要がある。

また、学習集団が学級の人数を超えることは少人数指導として適切ではない。特に40名を超える集団を1名の教師が指導することは避けなければならない。

**児童生徒の心情に留意したコース分けをする**

習熟度別に学習集団が分かれることに対する児童生徒の受けとめ方は様々である。したがって、児童生徒が差別感や劣等感を感じるようなコース分けにならないよう留意しなければならない。例えば、準備テストを行った結果について「この程度分かっている人はこのコースがよい。」といった目安を示し、児童生徒個人の判断に任せるといった方法もある。また、形成的評価を行いながら、教師による温かな助言により適切なコースを選択させる方法も重要である。このような経験を積み重ねることで、適切に自己評価できる能力を徐々に身に付けさせたい。さらには、習熟度別学習の導入によって人間関係を損ねることがないように、注意深く観察を続けることが必要である。

**児童生徒や保護者に対する説明を十分に行う**

自校の「個に応じた指導」の在り方について、児童生徒だけでなく、保護者にも十分に説明する必要がある。「なんのために」「どのように」ということを十分説明し理解を得ることは、誤解を生じさせない上で大変重要なことである。

また、家庭においても児童生徒の学習への取組について話し合うことを促し、学習に真剣に取り組む態度を育てていきたい。

さらに、学校全体で取り組んだ成果について保護者に説明することも大切である。

**学習の遅れがちな児童生徒にこそ、学習の楽しさが味わえるような指導を行う**

学習の遅れがちな児童生徒には、基礎・基本を確実に定着させるため、じっくり考えさせ丁寧に指導する必要がある。その子なりに成就感や達成感を得ながら、実感を伴って理解することこそが重要である。学習課題の解決方法や結

果だけを教え込むことは、真の意味での基礎・基本の習得にはならず、かえって学習を嫌いにさせてしまう場合も少なくない。

**理解の進んだ児童生徒には、より発展的な学習にも取り組ませる**

理解の進んだ児童生徒には、同じような内容を繰り返す学習だけでなく、より発展的な学習にも取り組ませ、自分で課題を設定したり思考を发展させたりしながら学ぶ力についても、より伸ばしていくことが重要である。発展的な学習については、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することもできる。

**学習集団の編成を弾力的にする**

児童生徒一人一人の実態に柔軟に応じるためには、学習集団を固定せず、弾力的に運用することが重要である。例えば、単元ごとに集団を入れ替えたり、実情に応じて途中でコースの変更を認めるなど、どの児童生徒にも様々な学習集団を経験する機会を与える必要がある。

5 習熟度別学習の例

《小学校第4学年(算数):2位数でわるわり算》

**ポイント**

ここで紹介するのは、1学級を二つの学習集団に分ける形態での習熟度別学習である。基礎・基本コースにおいては、段階を追って、少しずつ複雑な計算へと学習を发展させ、丁寧に指導していく。習熟を図る場面では、ゲームなどを取り入れながら、楽しく学習させる。また、発展コースでは、各自が自由に問題を作る活動や、より深く考察したり発展的に考えを進めたりする活動、学習したことを新聞等に表現する活動などを取り入れる。コース分けについては、1位数でわるわり算の確かめ用の計算テストを事前に行い、その結果を踏まえて児童にコース選択をさせるようにする。

**単元の流れ**

【基礎・基本コース】(5時間)

1 紙が68枚あります。1人に21枚ずつ分けると、何人に分けられるでしょう。

1位数でわるわり算での筆算に帰着させながら、具体的な場面に即して筆算の仕方を考えさせる。

2  $92 \div 24$ の計算の仕方を考えましょう。

前時と違う点は何かを考えさせ、商を修正する必要があることに気づかせる。

87 ÷ 17 の計算の仕方を考えましょう。

具体的な操作を取り入れながら、解を得るためにはどのようなことが必要かを考えさせる。

3 173 ÷ 48 の計算の仕方を考えましょう。

商の見当のつけ方について話し合わせる。あまりはわる数より大きくなってはいけないことなど、具体的な操作を通して捉えさせ、時間をかけて誤りの無いように計算練習をさせる。

検算の仕方を思い出させる。

4 268 ÷ 35 の計算の仕方を考えましょう。

(2桁) ÷ (2桁) の計算をした時のことを思い出しながら商の修正の仕方を考えさせる。

わり算すぐろく(あまりの数だけ進む)を楽しむ。

5 計算練習(基礎的な問題からやや難しい問題へと挑戦意欲を高めるよう工夫しながら)

【発展コース】 (5時間)

1 紙が68枚あります。1人に8枚ずつ分けると、何人に分けられるでしょう。

1人に分ける枚数が2桁になったらどんなことが起きるでしょう。

自由に問題を作らせ、特徴を捉えさせる。  
・1桁の時と同じように考えられる。  
・商を立てるのが難しい。  
・商が0になってしまうことが多い。

2 難しいと感じる問題の解き方を考えましょう。

92 ÷ 24 や 87 ÷ 17 のような計算の解き方を考え、仮商の修正の仕方を自分で図にまとめる。

3 わられる数が3桁になるとどうなるでしょう。

自由に問題を作らせ、特徴を捉えさせる。  
・商が2桁になる場合があるんじゃないか。(どういうときに2桁になるかを考える。)  
・商の見当のつけ方が難しい。(何度も修正しなければならぬこともある。)

4 268 ÷ 35 = 6あまり58と計算することについて話し合う。

検算では解が正しいことになるが、あまりがわる数より大きいといけぬことについて、なぜなのかを考え、話し合わせる。

計算練習をする。

わられる数が4桁のわり算にも挑戦する。

5 これまでの学習のポイントを整理して新聞等に表現し、学習を振り返る。

この事例では、1学級を二つの学習集団に分けているが、他にも2学級を三つの学習集団に分け、  
・基礎・基本をじっくり学ぶコース  
・知識・技能面を主に強化するコース  
・数学的な考え方を主に強化するコース等のコースを設ける工夫も考えられる。

おわりに

少人数指導については様々な意見が学校に寄せられることが考えられるが、大切なことは、学校全体で研究に取り組み、学校としてどのような考え方にに基づき、どのような点に配慮しながら取り組むかを外部に説明できることである。また、自校の取組の成果を常に評価し、改善を加えながら、児童生徒一人一人がより一層充実感の持てる学習指導にしていきたいものである。

各学校の特色ある取組が待たれる。

ティータイム 毛針釣り、雑感

ライトケーヒル、ロイヤルコーチマン、シルバーマーチブラウン、この名前を見てピンとくる方は、たぶん私と同じ趣味の持ち主でしょう。そう、これはフライフィッシング(以下FF)で使用する毛針の名称です。FFを始めて以来、魚を釣るという行為ばかりではなく、そこにある自然環境に目がいくことが多くなりました。ヤマメやイワナの生態、川面を飛ぶ虫や水生昆虫の様子、川の流れや石の様子、川岸の木々や山全体の様子。落葉広葉樹が多く残る山の渓は、少々の雨でも濁らず、水生昆虫も豊富で多くの渓流魚を育てています。それはまさに生きた川であり、自然の営みのすばらしさを実感させてくれます。

今、こうした生きた川は、残念ながらとても少なくなってきました。開発と自然環境の保全、とても難しい問題だと思えます。最近、「自然の中で生かされている自分がいるということを考えることも[生きる力]の一つかな」などと思いながらFFをしています。キャッチアンドリリースも忘れずに。